

# 2026年中小企業を取り巻く環境は

新たな年、2026年が始まりました。これまでの常識を塗り替えるような変化を、岐阜市の事業者はどのように乗り越え、チャンスに変えていくべきか。岐阜県中小企業診断士協会会長の道家睦明氏にお聞きしました。

新年おめでとうございます。皆様、希望に満ちた輝かしい新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。昨年比べ、今年はどういうような1年になるでしょうか。中小企業を取り巻く環境は、かつてないスピードで、変化しようとしています。今年起きる事を俯瞰しながら、これからの経営のあり方を共に考えてみましょう。

## 1 光熱費の見直しが「稼ぐ力」に直結する（GX推進法改正の施行）

いよいよ4月からは、CO<sub>2</sub>排出量が年間10万トン以上の企業は、排出権取引制度への参加が義務付けられ、中小企業においても、税額控除の制度もスタートします。中小企業も決して無関係ではありません。

実際、ある金属プレス製造業では、設備の見直しとレイアウト変更を徹底しただけで、月額150万円の電力料金を50万円にまで圧縮しました。売上を問わずとも、年間で1,200万円もの利益が捻出されたのです。光熱費を下げれば、CO<sub>2</sub>も減ります。省エネ診断などを受けることで、ムダが見えてきますし、エア漏れの確認や節電

や節水などの活動でも削減できます。まずはここから始めてみませんか。

## 2 中小企業にこそ眠るチャンス（宇宙開発の本格化）

月面開発を目指す「アルテミス計画」に向けて、NASAの「アルテミス2号」による有人飛行テストや、国内宇宙ベンチャー「ispace」の月着陸船の打ち上げなどが始まるとともに、JAXAの「はやぶさ2」の小惑星へのミッションなども予定されています。宇宙への挑戦がこれまで以上に身近なニュースとして飛び込んでくるでしょう。

「うちの商売と宇宙は関係ない」と思われる方も多いと思います。例えば、小規模の野菜生産者がJAXAと組んで、規格外野菜を宇宙食にできないかと生産体制を変えたりする実験に取り組んでいます。これまで宇宙とは関係が無いと思っていた事業者でもチャンスが拡大しています。中小・小規模事業者こそ、一度「夢」を持つて、自社の技術や製品が宇宙という極限環境でどう活かせるかを想像してみてほしいのです。

人手不足の中での工夫として、省力化できる部分はないか、考えてみてはどうでしょうか。

また、無料でスマホの生成AIアプリもあるので、何か質問を試してみるだけでも、AIのいる生活とはどんなものか垣間見ることができると思います。隣に、優秀なスタッフが一人増える、という感覚を味わってみてください。

## 3 「昭和時代」がスクラップされる!?

2026年は、昭和元年から満100年となりますが、昭和時代に建造された国内14万の橋梁のうち、47%が寿命を迎えるのも現実です。「収入証紙」や「収入印紙」も廃止、紙の約束手形も、NTTドコモのiモードも、電話帳「タウンページ」や電話番号案内サービス「104」も終了するといった予定もあります。

先日、ガソリンスタンドや中古車販売の経営者が、これまでのやり方では今後は難しいとして、黒字経営ではあるものの、前向きに廃業を決断された例もあります。廃業とはいわなくても、これまでのやり方を変える、制度や仕組みなどを大幅に見直すことも必要ではないでしょうか。例えば、「いつもの作り方とは違うやり方はないか」、「目・肩・腰に、もっとやさしい動き方ができないか」、「昔からこういうものだ」という言葉をなくしてみる」



岐阜県中小企業診断士協会 会長  
道家 睦明  
中小企業診断士

## 3 「温泉文化」と「神楽」への注目

心と体を癒やす日本人の慣習「温泉文化」と各地で伝承される民俗芸能「神楽」について、政府がユネスコに「無形文化遺産登録」を申請する予定となっています。日本の文化がまたひとつ世界的な注目を浴びることになるでしょう。さらに、シルバークイックが11年ぶりに5連休となります。

また、岐阜市では、「宿泊税」の導入も始まり、岐阜城の天守閣は、大規模改修のため長期間の入場不可期間に入る予定となっています。

これらのポジティブな面と、ネガティブな面が交錯しますが、インバウンド客も含めて、岐阜の良い面への見直しとこれからの期待が混在する年になりそうです。

「他の業界のやり方を取り入れてみる」などの視点で考えてみると、新しい糸口が見えてくるでしょう。

## 6 岐阜の未来予想図基盤が整備され、日本の中心として跳躍へ

岐阜城楽市のにぎわい、スタートアップへの官民挙げての支援、東海環状の北側部分の開通による効果、そして、温泉のユネスコ文化遺産登録、レベル4での自動運転バスの運行などの動きなどを見ていると、2026年をきっかけに、新しいものへのチャレンジが、日本の中心である岐阜から育っていく可能性を感じます。

すでに、ユニークなビジネスを展開する企業や新事業が、岐阜で誕生してきています。この動きを加速していくためにも、良い意味での昭和時代との決別や、白紙に戻る感覚、そして、顧客視点での発想と、一歩足を踏み出す勇気が必要なのではないかと感じます。とはいえ、「丙午」。火の要素が重なり「情熱的」「パワフル」な意味を持つ年です。「令和の丙午」が、日本の中心から世界を動かすよいきっかけになることを祈っています。

### Profile

道家 睦明（どうけむつあき）  
1987年3月／慶應義塾大学商学部卒業。1987年4月～2012年6月／大手広告会社にて勤務。社内教育部門およびマーケティング企画部門にて、人材教育プログラム開発やさまざまな業種のマーケティング計画・コミュニケーション計画・販売促進計画の立案・実施に携わるとともに、新規事業の事業計画立案・実施、異業種の事業コラボレーションのプロデュース等も担当。2003年3月／行政書士登録。2012年4月／中小企業診断士登録。2012年7月／道家経営・法務事務所開設。2023年／岐阜県中小企業診断士協会会長。